

【特色ある実践】

羽後町の読書推進について
～家読と朗読の輪を広げるために～

羽後町立図書館 館長 原田 真裕美

1 はじめに

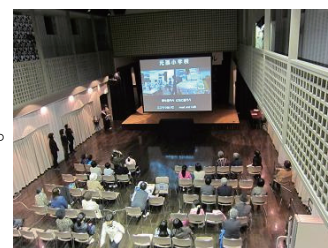
羽後町立図書館は、読書を通じた新しいコミュニケーション運動として誕生し全国的に広がりを見せる「家読推進プロジェクト」の一員として、学校・家庭・地域と連携を図りながら読書活動を推進している。また、「FMゆーとぴあ」で現在放送中の“小さな朗読コンサート”（「家読推進プロジェクト」との共同企画）を羽後町立図書館で年に2回開催するなど、朗読にも力を注いでいる。

※家読…「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味する。

2 活動内容

(1) ブックフェスティバル

今年度は、2回開催された（6月/11月）。6月には、作家の柳田邦男氏を講師に迎えて、「大人の再生・子どもの成長」というテーマで講演が行われ、町の人々が絵本や家読の大切さを再認識するよいきっかけとなった。また、羽後町のお話グループ「絵本とあそぼの会」「羽後昔っこの会」「おはなし玉手箱」の合同公演や、教育委員会の3施設（中央公民館・歴史民族資料館・民話伝承館）との合同企画として、羽後町の歴史や特色を生かした展示も同時に開催された。11月のブックフェスティバルでは、「読書標語」「本の紹介コンテスト」の表彰と発表、故小坂太郎氏の作品で兄弟愛がテーマの人形劇「満月」の上演などを行い、大変充実した一日となった。



【ブックフェスティバルの様子】

(2) 小さな朗読コンサート

3月と8月に行っている朗読コンサートでは、ギタリスト柴田周子氏のソロ演奏とギター演奏をBGMにした朗読が、プログラムの定番となっている。3月の公演では、一般公募による出演者が、自由なテーマで選書・選曲して朗読を行った。8月の公演では、「戦争と平和」をテーマにした作品の朗読が行われた。今回一番注目を浴びたのは小・中学生による群読「へいわってどんなこと」である。子どもたちの元気ハツラツとした朗読に、会場からはひととき大きな拍手が送られた。また、岩手県北上市で活動している「麗ら舎読書会」の阿部氏と「羽後昔っこの会」の鈴木氏との共演による「石ころに語る母たち」の朗読は、多くの観客の涙を誘った。



【ギタリストによる演奏】



【公演での朗読の様子】

(3) 親子手作り絵本教室

この教室は、布絵本製作グループ代表の土倉泰子氏を講師に迎えて、夏休みに開催された。親子で触れ合いながら絵本作りを楽しむと同時に、絵本に対する興味・関心が更に高まるよい機会となった。秋のブックフェスティバルではこれらのかわいい作品が展示公開された。



【親子手作り絵本教室】

3 おわりに

羽後町立図書館が核となった読書活動の推進によって、少しずつではあるが町の人々の読書に対する意識が高まってきている。今後も、「家読講演会」や「家読フェスティバル」を定期的で開催し、学校・家庭・地域と連携を密に図りながら、家読をさらに浸透させたい。また、このプロジェクトの取組の一つである「子ども司書制度」等を導入し、本に親しみながら読書のすばらしさ、大切さを自分の家族や友人、地域の人々に伝えられる読書リーダーの育成も目指したい。